

2019 年度前期 授業評価アンケート結果

(1) 目的

平成 26 (2014) 年度より全学的なカリキュラム改編が行われ、新カリキュラムの PDCA の一環として、授業評価アンケートを実施しています。調査データについては、大学全体の教育の質的向上に繋げることを、各担当教員が授業方法の改善点を見出し、積極的に自己研鑽を行うとともに、教員一人ひとりの更なる教育力の向上に活用されることを目的としております。またそれぞれの改善点を各授業のシラバスに反映し、教育に具現化し実行していくことが肝要であります。

(2) 対象学年および対象科目

全学年 前期開講科目

但し、プロジェクト科目については前期に登録するが、授業計画が後期に終了するため後期科目と共に調査します。

(3) 実施期間

1～4 年生 令和元 (2019) 年 9 月 10 日 (火) ～ 9 月 13 日 (金)

(4) 実施形式

マークシート形式および自由記述

(5) 履修者数・回答者数・回収率

対象科目数	255	回答科目数	255
履修者数	8,189	回収数	6,598 (回収率 80.6%)

【設問の観点別 分析について】

質問項目/設問の観点/全科目の平均値を掲載しています。各科目の項目ごとの回答、⑤を5点、④を4点…①を1点として合計した値を回答数で割り、平均を出しています。

質問項目【マークシート】	観点		全体平均 (2018 後期)
Q1、この授業はシラバス（授業計画）に沿ったものだった。	授業の計画性に関する こと	個別授業の改善等に関する こと (授業計画の妥当性)	4.3 (4.2)
Q2、この授業の難易度は適切であった。		カリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証に関する こと (授業の難易度、レベル)	4.2 (4.1)
Q3、この授業の課題の量は適切であった。			4.2 (4.1)
Q4、この授業は、教え方（説明や板書など）や教材（教科書やプリントなど）は、工夫されていてわかりやすかった。	授業運営に関する こと	個別授業の改善等に関する こと (教育方法)	4.2 (4.1)
Q5、授業担当教員に質問や相談などがしやすいように配慮されていた。		個別授業の改善等に関する こと (教員とのコミュニケーション)	4.2 (4.1)
Q6、この授業の内容（知識、スキル、制作など）は、さらに深く学びたいと思う内容であった。	授業の魅力に関する こと	カリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証に関する こと (授業の魅力に関する こと/学生ニーズ)	4.2 (4.0)
Q7、この授業は総合的に判断して良い授業であった。		カリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証に関する こと (授業の魅力に関する こと/総合評価)	4.2 (4.2)
Q8、私は、この授業を受講するにあたって準備学習など（授業外でおこなう予習・復習・課題・レポート等）は週に平均何時間以上であった。	学生の自己評価に関する こと	学生の学習時間の把握	3.0 (3.1)
質問項目【自由記述】	観点		
①、2019年度前期に受講した科目のうち、特に良かった点、継続してほしい点を、授業科目名を挙げて具体的に記述してください。	その他の評価		
②、2019年度前期に受講した科目のうち、改善すべき点や授業に関する要望がある場合、授業科目名を挙げて具体的に記述してください。			

* Q1～Q7 について

⑤強くそう思う ④おおむねそう思う ③どちらでもない ②あまりそう思わない ①全くそう思わない

全体平均 4 以上とおおむねそう思うことから強くそう思うと満足度の高い回答が多いといえます。

* Q8 について

⑤5時間以上 ④3時間以上5時間未満 ③1時間以上3時間未満 ②1時間未満 ①全くしてない

平均数値では、3.0 と他の平均に比べて低い数値と見えますが、回答項目で見ると1科目につき週1時間以上3時間未満の準備学習をおこなっており、概ね1単位あたり求められている学習時間が確保できているといえます。